

## 2011年度先行登録説明会のご案内

2011年度に開講されるプロジェクト科目(25科目)の登録説明会・先行登録を3月26日(土)、今出川・京田辺の各開講校地にて実施します。登録を希望する学生は、必ず登録説明会にも出席してください!

### 京田辺校地開講 12科目

3月26日(土) 13:15~ 登録説明会(知真館2号館202番教室)  
14:15~ 先行登録

### 今出川校地開講13科目

3月26日(土) 10:00~ 登録説明会(寧静館31番教室)  
11:00~ 先行登録

詳細は、下記プロジェクト科目ホームページおよび今出川・京田辺両校地の掲示板をご参照ください。  
シラバス・講義概要はWEBで検索できます。

プロジェクト科目ホームページ <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>  
 テーマ一覧 <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/theme/> ※各テーマの詳細はテーマ一覧リンクをクリックしてください。  
 ブログ <http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/> シラバス・講義概要検索 <http://syllabus.doshisha.ac.jp>

## 2011年度プロジェクト科目一覧

テーマ	科目担当者(所属・氏名)
<b>京田辺校地</b>	
「京都企業の優秀なDNAを探ろう」	石田 正勝
同志社のリベラルアーツとスポーツマンシップ	平瀬 紘一
京都伝統地場産業のイノベーションとキャリアを探るプロジェクト	NPO法人日本キャリア・カウンセリング研究会 作田 稔
食育と健康(菜膳と野菜作りで、正しい食事と健康を考える)	NPO法人けいはんな菜膳研究所 井原 浩二
プロスポーツにおけるファン獲得と地域密着のためのマーケティングリサーチ	加藤 ひでなお
持続可能な新しい交通システムを作ろう!	五十嵐 敏郎
ものづくり・人づくり	中村 成男
高齢者・障害者が安心して暮らせる地域社会とは	池田 清
エコタウン実現プロジェクトーエココミュニティーの形成を目指してー	株式会社東洋設計事務所 齋藤 篤史
子供の成長に良い玩具の考察と企画	株式会社タカラトミー 渡辺 公貴
カリスマ経営企画担当者養成講座(社長の右腕になって経営を体感する)	中尾 光宏
大学発!スポーツプロモーション ~豊かな社会作りを目指して~	高橋 仁美
<b>今出川校地</b>	
京都土産から学ぶ商品企画	株式会社おたべ 酒井 宏彰
夜間中学を社会に発信しよう!夜間中学生を知っていますか?	次田 哲治
「花のキャンバスライフ」から情報発信に挑戦。新聞、ラジオ、ネットで	田原 敏孝
ソーシャル・プロデューサー養成講座 ~統一地方選挙と坂本龍馬をプロデュースせよ~	小関 道幸
心ぬくもる「絵本」に出会う~絵本ソムリエ・プロジェクト~	上野 康治
花で人をつなぐ!~介護、支援の場で新たな取り組みを考える~	NPO法人フラワー・サイコロジー協会 浜崎 英子
京都の織物文化活性化計画!~織物の伝統技術について考えよう~	日本伝統織物保存研究会 龍村 周
私はイベントプロデューサー!	国民文化祭京都府実行委員会事務局 青柳 良明
上京区活性化プロジェクト~区民との協働で地域課題の解決を!~	京都市上京区役所 豊田 博一
「京丹後漁業活性化プロジェクトー新たな地域ブランド商品の開発」	間人底曳網漁業女性の会 田中 郁代
京の筏を復活させよう!~保津川筏復活プロジェクト~	NPO法人プロジェクト保津川 早田 和仙
「平成の京街道をゆく~京阪沿線の魅力を発見・発信・発信しよう!」	京阪電気鉄道株式会社 高橋 正浩
祇園祭を中心に「京の心意気」を留学生と発見しよう!	株式会社社 遠藤 正彦

## 記事募集のお知らせ

### プロジェクト科目とは?

2006年度から始まった「プロジェクト科目」は、教員が一方的に知識を伝授する座学の講義スタイルとは異なり、みなさん自身が構想、計画をし、ディスカッションを重ね、行動するという、実践型スタイルの授業です。全学共通教養教育科目であり、学部・学年の垣根を越えて共に活動し、プロジェクトを推進していきます。

PBL推進支援センター通信では、同志社大学が取り組んでいるPBLの活動を中心に、他大学で展開されているPBLの事例紹介なども含め、発信していきます。実際に担当されている教職員や受講生、卒業生の皆さんからも、記事や情報を募集します。PBLについて、「こんな取り組みをしています!」「イベントを開催します!」といった記事や「〇〇大学でこんな科目があります」といった他大学の事例などの情報も是非、事務局までお寄せください。



問合せ先  
 同志社大学PBL推進支援センター  
 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 教務課内  
 Tel: 075-251-4630 Fax: 075-251-3064  
 E-mail: [ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp)  
 ホームページ  
<http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/>  
<http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>  
 ブログ  
<http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/>

# PBL

## Project - Based Learning

## 推進支援センター通信

Vol.3



大久保 雅史 氏(同志社大学理工学部教授)

### 「学生とプロジェクト」

井上 明 氏(甲南大学マネジメント創造学部教授)

### 「甲南大学におけるPBLの取組」

## 活動報告

- 2010年度「市民公開型教職員協同講習会」
- 2010年度「第2回プロジェクト・リテラシー講習会」
- 2011年度プロジェクト科目「担当者・代表者説明会」
- 2010年度プロジェクト科目「秋学期懇談会」
- 2010年度プロジェクト科目「秋学期成果報告会」
- 2010年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」
- 2010年度「第2・3・4回PBL推進協議会」
- 2010年度プロジェクト科目「学生成果報告書」

- 卒業生からのメッセージ/池田 妃呂さん(2009年卒)
- 山田センター長のつぶやき

2011年度プロジェクト科目一覧

2011年度プロジェクト科目先行登録説明会のお知らせ



大久保

雅史氏

(同志社大学 理工学部 教授)

## 「学生とプロジェクト」

私は、本年度、同志社大学のプロジェクト科目「京都の伝統織物の情報発信プロジェクト」を担当させていただいた。また、同時に、学校法人同志社が展開する同志社ローム記念館プロジェクトの運営委員でもあり、そのプロジェクトの一つ「ゲームソフトの評価とニーズを探る」プロジェクトを担当している。前者は大学の正規科目であり参加する学生は単位を取得することができる。一方、後者は法人内の諸学校の学生・生徒をはじめ多彩なメンバーによって活動しているプロジェクトで、いわゆる課外活動と位置づけられる。これら二つのプロジェクトのあり方や棲み分けは、これまでも、またこれから議論がされることではあるが、両方のプロジェクトに関わることから得られる発見は、なかなか興味深いものがある。

まず、正課科目と課外活動の違いである。授業であるプロジェクト科目に参加する学生は、年度初め、「プロジェクト」をも、与えられる教育と考えて履修する傾向にある。つまり、一般・専門科目では得られない(だろう)知識の獲得を重視し、そこから何かを生み出すプロセスを一人称的に体験することが重要であるという意識が低い。ある意味、真面目ではあるが、PBLの根幹である、その先の一步をなかなか踏み出せないことが多い。一方、ローム記念館プロジェクトでは、何かを生み出そうという気概はあるが、比較的、規則が緩やかで自由であるがゆえ、どうしてもプロジェクトメンバー全員が一斉に何かにとり組む姿勢に欠ける傾向にある。これらの問題については、学生に対するPBLの重要性と意味をより啓蒙するとともに、生半可な気持ちで参加することがチームのプロジェクト活動全体に及ぼす影響についても理解させる必要がある。

つぎに、テーマの違いによる学生の態度や姿勢の違いについても考えさせられている。「京都の伝統織物の情報発信プロジェクト」では、織物の制作行程を知り、世の中に錦の素晴らしさを発信することを目的としているが、参加

する学生のほとんどは、「錦とは何か」から学ばなければならない。そのため、プロジェクト期間の約半分は、職人の工房を訪ね、制作行程を知るとともに、錦の歴史や職人魂を身をもって体感する必要がある。この学習過程では、プロジェクトメンバー間で知識や体験の共有が行われ、それと同時にチームワークもはぐまれる。一方、「ゲームソフトの評価とニーズを探る」プロジェクトに参加する学生は、ゲームのヘビーユースがほとんどで、将来はゲームに関わる仕事につきたいと考えているメンバーも多い。つまり、参加メンバーは、各個人がゲームに対してかなり深い知識と思い入れを持っており、このことが逆にチームとしての活動の一つの障害となることもある。つまり、プロジェクトとして与えられる課題が学生にとって興味深かつ馴染みのないものであれば、チームとしてのメンバーシップは育ちやすいが、学生が得るものは、その分野の専門的な知識が中心となりやすい。一方、馴染みのある課題では、参加するメンバーがもつそれぞれの知識や体験の相互理解が必要であり、思い入れが深いテーマになるほど、それが難しくなる。

PBLの理想は、主体的に考え、主体的に活動する個人がプロジェクトチームにおけるメンバーシップを発揮して成果を出すプロセスを経験することで、いわゆる座学で得ることが困難な、様々な人間力を養うことである。しかしながら、上で述べたように、主体的に思考・行動することと同時にチームワークを形成することは、相反する命題である。理想的なPBLが実施されるためには、この二つの命題を高いレベルで均衡させる必要がある。このことは、野球やサッカーをはじめとするチームスポーツにとっては当たり前のことではあるが、そういった経験のない学生にとっては、かなりハードルが高く、その意義を理解することも困難である。したがって、このような問題に対する我々教職員のファシリテーターとしての役割はきわめて重要であると考えられる。



2009年4月に開設された甲南大学マネジメント創造学部(愛称:甲南CUBE。以下CUBE)は、PBLを学部教育の中心に位置付けている。CUBEでは、PBLを効果的に実践するために、カリキュラム、設備の両面で工夫をしている。

CUBEでは1年生前期からPBLが始まる。この1年次PBLは、「自ら学ぶ」「仲間と学ぶ」を経験するPBLの導入的な内容であり、必修科目となっている。1学年約200名を1クラス50名程度に分け、教員2~3名で担当する。文献調査法やディベート、プレゼンテーション方法などを学んだ後、1チーム6名程度でグループワークを行う。学期最後には、各クラスの代表チームが全学生の前でプレゼンテーションを行う。

2年次からは、パブリック、グローバル、ビジネスなどの分野に分かれたより専門性の高いテーマのプロジェクトが開講される。プロジェクト数は前期・後期合わせて約70テーマある。学生はその中から各学期に1~2テーマ選



択する。テーマは例えば「商品企画プロジェクト」「関西地域活性化の方策を探る」などがある。1クラス最大30名程度である。フィールドワークや学生の主体的活動の時間を多く取れるよう、1週間に3コマ連続で授業を行っている。学生は2年生から4年生の間にプロジェクトを通じて、実践的に専門知識を学ぶ。また、プロジェクトに必要な基礎知識や周辺知識は、「ワークショップ科目群」「実践・創造科目群」などの科目と連動して学ぶ構成となっている。

PBLをより効果的に実践するために、以下のような環境を構築した。1)学部専用SNS、2)授業以外での学びの場「コラボレーション・スペース」、3)能動的なプレゼンを実現するワイヤレス・プレゼンテーションシステム、4)学びのツールとして全学生ノートパソコン所有、5)館内全域無線LAN。これらの学習環境を活用しPBLを推進している。



井上  
明氏

(甲南大学 マネジメント創造学部 教授)

## 「甲南大学におけるPBLの取組」

# 活動報告

Activity Report

Vol.3



- 2010年8月28日(土) 2010年度 第1回市民公開型教職員協同講習会
- 2010年9月25日(土) 2010年度 第2回市民公開型教職員協同講習会
- 2011年3月5日(土) 2010年度 第3・4回市民公開型教職員協同講習会

市民公開型教職員協同講習会では、プロジェクトを核に最先端の研究や商品開発を行っている企業から講師をお迎えし、プロジェクトが内在する教育力について、市民の皆さん、教育機関関係者、学生とともに考えます。2010年度は「経済産業界から学ぶPBL」をテーマに全4回開催しました。第1回目は東洋紡株式会社の曾我部行博氏に講師をお願いし、『TOYOBOの果敢な挑戦!—繊維からバイオへ—』をテーマにバイオ事業に早くから着目し、発展・成長を支えている先進的な事業体制についてご講演いただきました。第2回目には、JOHNAN株式会社より中野哲浩氏をお迎えし、「自創型プロジェクト人材が実現する製造支援ソリューションビジネス」をテーマに、実際にJOHNAN株式会社で取り組まれている6種類のプロジェクト事例をご紹介いただきました。第3回目、4回目は合同で開催し、株式会社ワコールの赤野美紀氏には、「新しいコンセプトによるメンズインナーの開発に学ぶ」というテーマで、また株式会社滋賀銀行の西堀武氏には「滋賀銀行のCSR 経営—お金の流れで地球環境を守る—」というテーマでご講演いただきました。各回とも、企業が考えるPBLの意義や課題、可能性に傾くことも多く、示唆に富んだ講演でした。なお、市民公開型教職員協同講習会は、2011年度も開催します。詳しくは、当センターホームページ(最終面参照)にてご案内します。



## ■ 2010年11月30日(火) 2010年度プロジェクト科目 第2回プロジェクト・リテラシー講習会

前回も大好評であったこの講習会ですが、今回は川中大輔氏(シチズンシップ共育企画)を講師としてお迎えし、「伝える技術について～プレゼンテーションの極意～」と題して開催されました。秋学期成果報告会を学期末に控え、京田辺、今出川の両校地から集まった40名を超えるプロジェクト科目の受講生は、真剣な表情で耳を傾け、積極的に質問をして、会場は大いに盛り上がりました。「プレゼンテーションは相手への贈り物である。」をキーワードに、今まで経験したプレゼンテーションの良かった点、悪かった点を発表してもらいました。その後、脚本(コンテンツ)と演出(手法)という2つの側面から、聴き手に合わせた言葉の選択など、相手の立場に立って話すプレゼンの極意を考えていきました。最後に、計画・準備・練習についての5つのルール、本番で惹きつける7つの技術そして評価を通じた成長のための5つの習慣をまとめた「プレゼンテーションの5・7・5」を講師から学び、今後、成果報告会以外にも人に伝える場面でとても役に立つ講習会となりました。



## ■ 2010年12月11日(土) 2011年度プロジェクト科目 担当者・代表者説明会

今年も、2010年夏から公募をスタートし、10月8日(金)に締め切りました。応募総数72件より、学内での審査を経て25のテーマが2011年度プロジェクト科目として決定しました。12月11日(土)には、京田辺、今出川の各校地において、2011年度の担当者を対象に授業運営についての説明会を開催しました。来年度は新規に採択されたテーマも多く含まれており、変化に富んだ年になりそうです。来年も学生の活発な活動を期待しています(2011年度テーマは本紙最終面をご参照ください)。



- 2011年1月12日(水) 2010年度プロジェクト科目 秋学期学生懇談会
- 2011年1月19日(水) 2010年度プロジェクト科目 秋学期SA・TA懇談会

プロジェクト活動が終盤となる1月に、秋学期の学生懇談会、SA・TA懇談会を開催しています。人との出会い、目標設定、情報共有の大切さなど、活動を通じて何に気づき、何を達成することができたか、たくさんの意見が出されました。また、どのようにメンバー間の距離を縮めることができたのかといった他のプロジェクトへの質問が出るなど、自分たちの活動を振り返り、他から積極的に学ぶとする姿勢も見られました。SA・TA懇談会では、受講生同士あるいは受講生と担当者の「間を取り持つ」役割の大切さがどのプロジェクトにも共通して述べられ、この科目のSA・TAに求める役割を自然に理解し担ってくれていた様子を、改めて彼らの存在の重要性を感じました。プロジェクト科目の魅力については、両懇談会で共通して「他の科目と異なり、学部や学年に関係なく、いろんな学生が集まり、全てをゼロから受講生みんなで作り上げていくところにある」との意見が出ました。PBL型教育を全学共通教養教育科目として設置しているメリットを学生自身が一番理解し、享受していることを再認識できた懇談会でした。



## ■ 2011年1月23日(日) 2010年度プロジェクト科目 秋学期成果報告会



秋学期科目、春学期・秋学期連結科目の計21科目が今出川校地に一堂に会し、成果報告会が開催されました。ポスターセッション形式で開催された春学期とは異なり、秋学期は壇上でのプレゼンテーション形式で行われました。中には、映像を上手く活用した発表や、ラジオ番組に見立てた発表などもあり、各プロジェクトの個性を十分に活かして、工夫したプレゼンテーションが行われました。質疑応答では、会場の受講生からも鋭い質問が多く飛び交い、同年代のプロジェクトに対する意識の高さも伺えました。PBL型学習では他者に「伝える」こと、そして他己・相互評価を通じて自己を「評価する」ことを重視しており、各ステップの学びを成果報告会を通じて再考することができたのではないのでしょうか。ほぼ半日に及ぶ成果報告会では休憩も無く、予定時間を1時間近くオーバーするなど、今後の運営方法における課題も多く見つかった報告会となりましたが、途中退出する学生も少なく、過去最高の出席率となりました。最後まで多くの学生が発表に耳を傾け、積極的に質問してくれました。皆さん本当にお疲れ様でした。

なお、委員の先生方による審査の結果、接戦を制し、受賞したのは、下記のプロジェクトです。おめでとうございます。  
最優秀賞:『スポーツイベント開催!』学生と地域の連携によるスポーツクラブ  
優秀賞:食育と健康(自家菜園を通して薬膳を考える)  
特別賞:「同志社山手」地区におけるまちづくりデザイン提案

## ■ 2011年1月24日(月) 平成22年度大学教育改革プログラム 合同フォーラムポスター展示会

東京都秋葉原コンベンションホールで開催された文部科学省主催による合同フォーラムに参加し、初日に当たる1月24日(月)にポスター展示を行いました。本学のプロジェクト科目の取組は、平成21年度の大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムに「プロジェクト・リテラシーと新しい教養教育」として採択されています。当日は平日にも関わらず、大学教育関係者、高校教員等、多くの方が本学のブースに立ち寄り熱心に質問をしてくださいました。テーブルの上に用意したパンフレットもすぐに無くなるなど、大盛況の展示となりました。専門科目としてではなく、全学共通教養教育科目でPBLを実践している点やプロジェクト科目の特徴(公募制、少人数制、授業運営費)、授業の進め方、受講生の成績評価等に質問が集中しました。また、当センターの活動の中でもとりわけ他の大学や教育機関にご参加いただいているPBL推進協議会の問合せが数多く寄せられました。山田PBL推進支援センター長も、終日、訪問者への説明に追われ声がかかるほど忙しい1日でした。



- 2010年9月18日(土) 2010年度 第2回PBL推進協議会
- 2010年12月4日(土) 2010年度 第3回PBL推進協議会
- 2011年1月30日(日) 2010年度 第4回PBL推進協議会



当センターでは、PBL推進協議会を年4・5回定期的に開催し、PBLの事例報告を通じて学内外のPBL教育における研究活動を支援し、PBL型教育の研究・開発を推進しています。第2回目は、大阪サテライトオフィスにて、「学習意欲を高めるナビゲータの役割」と題し、神戸六甲山にフリースクール『ラーンネット・グローバルスクール』を開校して小中学生を対象に実践しているPBL教育について炭谷俊樹氏よりご報告いただきました。第3回目は東京オフィスにて、早稲田大学で「実践型社会連携教育プロジェクト プロフェッショナルズ・ワークショップ」を企画・担当されている大学職員の赤松茂利氏、末松大氏、竹迫寿氏、牧井文伸氏よりご報告いただきました。また、第4回目は、「社会教育と博物館活動PBLについて」をテーマに天理大学の佐々木保孝氏、兵庫県立考古博物館の中川渉氏、そして四條畷市教育委員会の野島稔氏よりそれぞれ事例をご報告いただきました。毎回、先進的な取組事例の報告に、参加者から活発な質疑応答が行われ、今年度も盛会となりました。2011年度も引き続き、PBL推進協議会を開催します。スケジュールについては順次、ホームページでご案内しますので、ご興味のある方はぜひともご参加ください。

## ■ 2010年度プロジェクト科目 学生成果報告書

2010年度版学生成果報告書が完成しました。今年度開講された22科目についてプロジェクト科目の受講生自身が執筆、写真なども盛り込んで、自らの活動の成果を振り返り、報告しています。今年度からは新たに、「後輩へのメッセージ」のコーナーを設け、プロジェクトリーダーなどの受講生より、これからプロジェクト科目を履修しようと考えている学生に向けたメッセージを掲載しています。なお、完成した学生成果報告書は受講生一人一人に配付するほか、同志社大学内の事務室や資料室さらに他大学の教育研究機関にも送付し、PBLに関する情報の発信を行っています。



## 卒業生からのメッセージ



池田 妃呂さん

【プロフィール】

2007年度プロジェクト科目「新しい京都の逍遥ガイドスを作ろう!」受講生。2009年に同志社大学社会学部を卒業し、現在株式会社リクルート勤務。プライダルカンパニー 第2営業統括部九州グループでプライダル情報誌「ゼクシィ」の営業を担当。

2007年の春、初めてPJ科目の教室で仲間と出会った日のことを、今でも鮮明に覚えている。自己紹介で、熱弁をふるう姿を見て「この人たちとなら京都の新しい観光ガイドスが作れる!」と意気込んだ。

ところが、いざ企画・素材集めの段階になると、個々の想いが強すぎて意見がまとまらない。集まれば自分勝手に進めようとする。一人ひとり信念を持っているはずなのに、何も作り出せない、と愕然とした。

これではだめだ、とようやく気づいたのはもう夏の終わりだったのだろうか。誰からともなく寒梅館のミーティングルームに集まって、コンセプト作りから再始動した。リーダーが中心となり、今までばらばらに言い合っていた意見を、付箋に書き出してまとめていく。冊子のコンセプトが出来上がるにつれ、自分を主張するだけではなく、相手の話を聞き、認め、1つの目的に向かって互いの長所を活かしながら仕事をするメンバーの姿勢も出来上がっていった。「仲の良い友達グループ」から、「チーム」に変わる瞬間。これを体験できるのが、PJ科目の醍醐味であると今となっては分かる。

現在担当している広告営業の仕事では、自分と異なる背景を持った多くの人と、お客様の課題解決という1つの目的に向けて取り組んでいる。新しい価値観に出会った時、それを自分とは違うと押しつけてしまうのか、新しい発見と楽しめるのかでは、仕事のやりがいは何倍も違うだろう。

後輩たちにも是非、異なる価値観との出会いを楽しみながら学んでほしいと思う。

同志社大学PBL推進支援センターの山田和人センター長によるコーナーです。今回は、2011年1月23日(日)に行われた、2010年度プロジェクト科目秋学期成果報告会についてのつぶやきです。



春学期は170人近くの学生が参加して3時間半に及ぶポスター発表を行い、秋学期は6時間に及ぶプレゼンを連続で行うことができました。運営上の課題も残りましたが、プロジェクト科目の歴史に残る快挙と言っていいでしょう。発表を聞いていて、社会に向かって「問いかける力」を着実に学生が身に付けつつあると実感しました。若者の内向き傾向が指摘されていますが、プロジェクト科目の受講生にジャパンシンドローム騒ぎなど通じないということをアピールできたかと思います。学生たちの「問いかける力」が結集されていくとき、社会は確実に変わっていくのだと強く感じさせてくれました。最後に一言!自己評価できる人間こそ人生を自らの力で切り拓いていく創造的な人物と言えます。自分を励ましてくれるのも、自分を叱咤してくれるのも自分しかない。自分自身を過不足なく評価できるようになった人間は強い。報告会はそのためにあります。

山田センター長の  
つぶやき